

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ジャックと豆の木 とよた		
○保護者評価実施期間	令和7年12月10日 ～ 令和8年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和7年12月10日 ～ 令和8年1月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	豊田市南部エリア施設を構えた事で、今まで利用が困難だった利用者さんにも、通所サービスを提供する事ができた。また、今まで学校へ行けなかった児童も受け入れを行った事で、学校にも行けるようになり、地域のニーズに答える事ができた。	送迎も楽しめるように、定期的にイベント送迎も行っている。保護者さんや学校関係の方にも好評をいただき、コミュニケーションの幅が広がり、認知度も上がっている。	引き続き保護者さん、関係機関との連携を図り、安全に医療的ケアを担う。
2	看護師が複数人在籍しているため、あらゆる医療的ケアに対応できている。	五感で楽しさを感じられるよう、様々な活動を取り入れている。季節感やトレンドにも興味を持てるように意識し、他ではやらない活動を意識している。また、体調不良で欠席した場合には、療育動画を配信し、継続した支援が受けられるようにしている。	保護者さん、学校関係者、その他関係機関と情報共有し、児童全体を把握。より良い支援に繋げていく。
3	自宅・学校への送迎を担っており、看護師も同乗する事で車内での吸引や人工呼吸器の管理などの医療的ケアに対応する事ができる。	活動中の様子が一目で分かるよう、定期的に写真で伝えるようにしている。楽しい雰囲気やお友達との関わりも送迎時に必ず伝えるようにしている。また、SNSを活用し、事業所の雰囲気や活動を発信している。	現在、保護者さんの交流の機会や参加型の取り組みは行っていないため、ニーズに合わせて検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校へのお迎えが、豊田特別支援学校1校のみの対応となっている。	周辺地域校への周知不足や具体的な送迎対応の困難さ	事業拡大 求人活動
2	理学療法士・作業療法士が在籍していない事。	理学療法士・作業療法士に対して事業所での働き方や活躍の場が周知されていない事。	事業拡大 求人活動
3	1日の受け入れ人数が決まっており、新規受け入れが難しくなっている事。	受け入れ人数の制限	事業拡大 求人活動

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援 ジャックと豆の木とよた

公表日 令和8年 2月 2日

利用児童数 令和8年 1月 5日 1名

回収数 1

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	1					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になって いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思 いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思 いますか。	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	1					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	1					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	1					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体 的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思 いますか。	1					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと 活動する機会がありますか。					1	そういう機会があるか分からないが、 今の所必要と感じない。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	1					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。	1					
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていますか。	1					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。					1	そういう機会があるか分からないが、 今の所必要と感じない。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。				1		利用時のお知らせやSNS等で発信していますが、分かりやすく確認できるように検討していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援 ジャックと豆の木とよた	公表日	令和8年2月2日
------	--------------------	-----	----------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		児童と児童の間に適切な空間・距離が保たれており、安全に動ける。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		看護師の人数が十分に配置されており、医療的ケアにも十分対応できている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		看護師の人数が十分に配置されており、医療的ケアにも十分対応できている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		環境整備と清潔保持は看護師が主体となり、適切に実施。全員が共通して行えるよう、教育も徹底している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		障がいの特性を理解して対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		情報共有しやすい環境と毎月の施設目標で業務改善・向上を目指している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		意見の言いやすい職場環境を意識している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月オンライン研修や事例検討を行い、従業員の知識と技術向上に努めている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		利用希望を募る際にプログラムの案内とSNSを活用して周知している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		保護者さんとの連携を密に図り、1人1人に合わせた計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		従業員全員が児童の様子を把握し、必要な支援を理解。座席表へ支援のポイントを掲げており、共有理解できている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援のポイントを座席表に掲げており、統一した支援を意識できるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		従業員全員でカンファレンスを行い、必要なプログラムを立案。共有している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		従業員全員でアイデアを出し合い、オリジナル感あふれるプログラムを意識している。 季節感やトレンドも問入れ、保護者さんや学校の先生にも楽しんでいただいている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		業務・役割分担をしっかりと行い、 チームで連携を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		ミーティングの時間をしっかりと設けており、 振り返りなど必ず共有するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			管理者が参加し、 会議内容を全体で周知している	新入職員では理解が難しい内容もあり、 かみ砕いて理解できるよう工夫していく。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	保護者さんへ活動の提案をするが、 学校や発達センターで十分な機会を得られており、 事業所に求められる事がない	保護者さんのニーズに合わせて活動の機会を 検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時には必ずその日の様子を伝えるようにし、 保護者さんとの連携を密に図っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	家族支援として必要な情報提供や支援を定期的に行っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	学校や発達センターで十分な交流をされており、事業所として希望される方はいなかった。	保護者さんのニーズに合わせて活動の機会を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎週SNSを更新し、事業所で行う事の告知や施設の案内を行っている。利用前にSNSを見て来てくれた児童もいる。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	近隣住民の方への理解や隣接する福祉事業所の方と日頃からコミュニケーションを図っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		新入職員や看護職ではないスタッフが何でも理解できるよう、図や写真を使用してマニュアルを作成。また、すぐに確認できる位置に配置して、意識付けしている。防災センター等へ出向き、訓練を受ける事もある。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に避難訓練を行い、日頃から避難しやすい様環境整備にも注意している。また、防災センターにも出向き、必要な訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		利用契約時に保護者さんとの面談を十分に取り、必要な情報を把握している。また、主治医に指示書の発行を依頼し、内容を確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		利用契約時に保護者さんとの面談を十分に取り、必要な情報を把握している。また、主治医に指示書の発行を依頼し、内容を確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		事例検討やカンファレンスを定期的開催し、従業員全体が安全意識をできるよう工夫している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットを書きやすい雰囲気とし、些細な事でも全体で共有。再発防止と重大インシデントにつながらないようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		定期的に研修を受け、全体で共有している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		利用契約時に保護者さんとしつかりと面談を行い、説明と同意を得ている。また、送迎時に児童の様子を伝えるようにしている。		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ジャックと豆の木 とよた		
○保護者評価実施期間	令和7年12月10日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和7年12月10日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	豊田市南部エリア施設を構えた事で、今まで利用が困難だった利用者さんにも、通所サービスを提供する事ができた。また、今まで学校へ行けなかった児童も受け入れを行った事で、学校にも行けるようになり、地域のニーズに答える事ができた。	送迎も楽しめるように、定期的にイベント送迎も行っている。保護者さんや学校関係の方にも好評をいただき、コミュニケーションの幅が広がり、認知度も上がっている。	引き続き保護者さん、関係機関との連携を図り、安全に医療的ケアを担う。
2	看護師が複数人在籍しているため、あらゆる医療的ケアに対応できている。	五感で楽しさを感じられるよう、様々な活動を取り入れている。季節感やトレンドにも興味を持てるように意識し、他ではやらない活動を意識している。また、体調不良で欠席した場合には、療育動画を配信し、継続した支援が受けられるようにしている。	保護者さん、学校関係者、その他関係機関と情報共有し、児童全体を把握。より良い支援に繋げていく。
3	自宅・学校への送迎を担っており、看護師も同乗する事で車内での吸引や人工呼吸器の管理などの医療的ケアに対応する事ができる。	活動中の様子が一目で分かるよう、定期的に写真で伝えるようにしている。楽しい雰囲気やお友達との関わりも送迎時に必ず伝えるようにしている。また、SNSを活用し、事業所の雰囲気や活動を発信している。	現在、保護者さんの交流の機会や参加型の取り組みは行っていないため、ニーズに合わせて検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校へのお迎えが、豊田特別支援学校1校のみの対応となっている。	周辺地域校への周知不足や具体的な送迎対応の困難さ。	事業拡大
2	理学療法士・作業療法士が在籍していない事。	理学療法士・作業療法士に対して、事業所での働き方や活躍の場が周知されていない事。	事業拡大 求人活動
3	1日の受け入れ人数が決まっており、新規受け入れが難しくなっている事。	受け入れ人数の制限	事業拡大 求人活動

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス ジャックと豆の木とよた

公表日 令和8年 2月 2日

利用児童数 令和8年1月5日 12名

回収数 11名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10			1		バギーや荷物、必要な医療機器で狭く感じてしまわれるかもしれませんが、規定通りのスペースは確保されております。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	10			1	何名かの看護師さんのお顔は拝見しますが、全員で何名いるのか分かっていません。	勤務時間の兼ね合いで、送迎で関わる看護師が固定されています。入職時には必ずご挨拶をさせていただきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	1				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5		1	5		保護者さんのニーズに合わせて検討していきます
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10			1		利用時には文書でのご説明をしておりますが、分かりやすく丁寧な説明に心がけてまいります。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1	1	4		保護者さんのニーズに合わせて検討していきます
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	11					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	1				送迎時には必ず保護者さんとお話の時間を設けております。また、個別支援計画の評価時には必ず保護者さんのご意見を伺っております。LINEや電話でのご相談も適宜受け付けております。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5		1	5		保護者さんのニーズに合わせて検討していきます

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10		1			ご相談やお申し入れは常時受け付けております。LINEや電話、送迎時など、保護者さんと常に連携を取り、迅速な対応を心掛けていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	1				安心してご利用いただけるよう、すべてのスタッフへ再教育を行っていきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8			3		利用時のお知らせやSNS等で発信していますが、分かりやすく確認できるように検討していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			3		各種マニュアルを作成し、研修を受けております。事業所として取り組んでいる事を随時発信していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			3		年に1度防災訓練を実施しています。非常時の備えや医療ケア児への対応も備えており、保護者様への伝達も行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10			1		具体的な安全対策や支援について、より詳しくご説明し、安心してご利用いただけるよう心掛けてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11				安心して利用していると思います。	ありがとうございます。引き続き、安心してご利用いただけるよう支援していきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11				楽しみにしていると思います。	ありがとうございます。楽しんで通所できるよう、さまざまな活動を計画していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11				いつもありがとうございます。	ありがとうございます。保護者さんにも安心していただける施設を運営していきたいと思っています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ジャックと豆の木とよた		公表日		令和8年 2月 2日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		児童と児童の間に適切な空間・距離が保たれており、安全に動ける。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		看護師の人数が十分に配置されており、医療的ケアにも十分対応できている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		看護師の人数が十分に配置されており、医療的ケアにも十分対応できている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		環境整備と清潔保持は看護師が主体となり、適切に実施。全員が共通して行えるよう、教育も徹底している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		障がいの特性を理解して対応している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		情報共有しやすい環境と毎月の施設目標で業務改善・向上を目指している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		意見の言いやすい職場環境を意識している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月オンライン研修や事例検討を行い、従業員の知識と技術向上に努めている。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		利用希望を募る際にプログラムの案内とSNSを活用して周知している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		従業員全員が児童の様子を把握し、必要な支援を理解。座席表へ支援のポイントを掲げており、共有理解できている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援のポイントを座席表に掲げており、統一した支援を意識できるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		従業員全員でカンファレンスを行い、必要なプログラムを立案。共有している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		従業員全員でアイデアを出し合い、オリジナル感あふれるプログラムを意識している。 季節感やトレンドも問入れ、保護者さんや学校の先生にも楽しんでいただいている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		業務・役割分担をしっかりと行い、 チームで連携を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		ミーティングの時間をしっかりと設けており、 振り返りなど必ず共有するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者が会議へ参加し、 得た情報は全体へ共有している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		児童の担任、主任先生と連携を密に図り、 小さな変化でも共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		昨年度1人該当者がおり、卒業前から情報共有を行い、安心して卒業できるようにした。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	保護者さんへ活動の提案をするが、学校や発達センターで十分な機会を得られており、事業所に求められる事が無い	保護者さんのニーズに合わせて活動の機会を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	管理者が参加し、 会議内容を全体で周知している	新入職員では理解が難しい内容もあり、かみ砕いて理解できるよう工夫していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時には必ずその日の様子を伝えるようにし、保護者さんとの連携を密に図っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	家族支援として必要な情報提供や支援を定期的に行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		学校や発達センターで十分な交流をされており、事業所として希望される方はいなかった。	保護者さんのニーズに合わせて活動の機会を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		情報共有はその都度行っており、迅速な対応を心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎週SNSを更新し、事業所で行う事の告知や施設の案内を行っている。利用前にSNSを見て来てくれた児童もいる。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		近隣住民の方への理解や隣接する福祉事業所の方と日頃からコミュニケーションを図っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		新入職員や看護職ではないスタッフが見ても理解できるよう、図や写真を使用してマニュアルを作成。また、すぐに確認できる位置に配置して、意識付けしている。防災センター等へ出向き、訓練を受ける事もある。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に避難訓練を行い、日頃から避難しやすい様環境整備にも注意している。また、防災センターにも出向き、必要な訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		利用契約時に保護者さんとの面談を十分に取り、必要な情報を把握している。また、主治医に指示書の発行を依頼し、内容を確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		利用契約時に保護者さんとの面談を十分に取り、必要な情報を把握している。また、主治医に指示書の発行を依頼し、内容を確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		事例検討やカンファレンスを定期的で開催し、従業員全体が安全意識をできるよう工夫している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットを書きやすい雰囲気とし、些細な事でも全体で共有。再発防止と重大インシデントにつながるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		定期的に研修を受け、全体で共有している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		利用契約時に保護者さんとしつかりと面談を行い、説明と同意を得ている。また、送迎時に児童の様子を伝えるようにしている。		